

カリキュラムコードの設定における注意点

単位・カリキュラムコード（略称 CC）

◇CC・単位付与基準について

- ・演題ごとに講演内容に対応した1 CC、単位を指定ください。
- ・演題ごとに1 CC・1単位・1時間を原則とします。（最小単位は30分=0.5単位）
1時間以上の演題の場合でもCCの付与は1つとしてください。
例えば1時間の演題に対し2つのCCを付与することは認められません。
30分に満たない演題が連続して複数あり、その演題に共通するテーマがある場合は、テーマに対しCC・単位の付与が可能です。（例をご参照ください）
- ・製品・挨拶・休憩時間は講演時間に含めることが出来ませんのでご注意ください。

例1）1演題目が30分、2演題目が1時間、3演題目が90分の場合、以下の通り付与が可能。

講演1「●●●●●」（30分） = 1つのCCに対し0.5単位

講演2「△△△△△」（1時間） = 1つのCCに対し1単位

講演3「■■■■■■■」（90分） = 1つのCCに対し1.5単位

例2）15分の演題が連続して4つある場合、その演題に共通するテーマを大演題（1時間）として、設定することにより付与が可能です。

テーマ「○○○○○○○」（13:00~14:00）

講演1「●●●●●」（15分）

講演2「△△△△△」（15分）

講演3「▲▲▲▲▲」（15分）

講演4「□□□□□」（15分）

※連続した演題を包括したテーマを設定する必要がありますので、テーマが示されていない・共通していない場合等は、その対象となりません。

◇地区医師会も単位・CCを付与できる権限を有していますので、地区医師会が共催・後援する研修会の場合、本会への申請は不要です。ただし、日本医師会へ単位を申告する関係上、研修会開催後は本会学術生涯研修課へ最終版のプログラムおよび出席者名簿（エクセル様式）をご提出ください。

日本医師会生涯教育カリキュラム＜2016＞（2022年4月版）
カリキュラムコード（略称：CC）

1 医師のプロフェッショナリズム	43 動悸
2 医療倫理：臨床倫理	44 心肺停止
3 医療倫理：研究倫理と生命倫理	45 呼吸困難
4 医師－患者関係とコミュニケーション	46 咳・痰
5 心理社会的アプローチ	47 誤嚥
6 医療制度と法律	48 誤飲
7 医療の質と安全	49 嚥下困難
8 感染対策	50 吐血・下血
9 医療情報	51 嘔気・嘔吐
10 チーム医療	52 胸やけ
11 予防と保健	53 腹痛
12 地域医療	54 便通異常（下痢・便秘）
13 医療と介護および福祉の連携	55 肛門・会陰部痛
14 災害医療	56 熱傷
15 臨床問題解決のプロセス	57 外傷
16 ショック	58 褥瘡
17 急性中毒	59 背部痛
18 全身倦怠感	60 腰痛
19 身体機能の低下	61 関節痛
20 不眠（睡眠障害）	62 歩行障害
21 食欲不振	63 四肢のしびれ
22 体重減少・るい瘦	64 血尿（肉眼的、顕微鏡的）
23 体重増加・肥満	65 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
24 浮腫	66 乏尿・尿閉
25 リンパ節腫脹	67 多尿
26 発疹	68 精神科領域の救急
27 黄疸	69 不安
28 発熱	70 気分の障害（うつ）
29 認知能の障害	71 流・早産および満期産
30 頭痛	72 成長・発達障害
31 めまい	73 慢性疾患・複合疾患の管理
32 意識障害	74 高血圧症
33 失神	75 脂質異常症
34 言語障害	76 糖尿病
35 けいれん発作	77 骨粗鬆症
36 視力障害・視野狭窄	78 脳血管障害後遺症
37 目の充血	79 気管支喘息・COPD
38 聴覚障害	80 在宅医療
39 鼻漏・鼻閉	81 終末期のケア
40 鼻出血	82 生活習慣
41 嘔声	83 相補・代替医療（漢方医療を含む）
42 胸痛	0 最新のトピックス・その他